

# 「イベント・フォーカス」の取材が無くなった後

神谷 直亮

昨年末までは、ウイルスと言えばパソコンやスマホの話かと思ったものだ。それが今年に入ってからコロナウイルスが急浮上した。新型と言われるコロナウイルスは、筆者のみならず多くの人達の仕事や生活に大きな変化をもたらしている。筆者に関して言えば、大、中、小を問わず、すべてのイベントが延期や中止に追い込まれて、取材の意欲と夢だけがむなしく残る。

最後の取材となったイベントは、2月26日～28日に幕張メッセで開催された「航空・宇宙機器開発展」（主催：リード エグジビション ジャパン）で、会場の受付では主催者からマスクが一枚提供され、展示会場の入り口では体温検査を受けることで取材ができた。

展示ブースは、大きく3つに分かれていた。1つは、マスクはしているものの通常の展示と何ら変わらないほぼ正常なブースである。典型的な例としては、「超小型衛星開発拠点」を自認する福井県の県民衛星グループが挙げられる。

2つ目は、展示内容は変わらないが、説明員を1人に絞り、詳しい説明を求められた時は電話で対応するスタイルのブースだ。VR（仮想現実）によるアプリ開発を支援するクリーク・アンド・リバー社のブースがその一例で、渡辺愛美 VR ディビジョンマネージャーが孤軍奮闘していた。

展示品もなく説明員もいない空の状態のブースが3つ目である。約5分の1のブースがこの姿であった。



写真1 筆者にとって「航空・宇宙機器開発展」（主催：リード エグジビション ジャパン）が、今年最後の展示会となった。

このイベント以来、本稿執筆中の5月中旬まで約2か月半に渡りネタ切れ状態が続いている。テレワーク様式の生活には慣れているが、新しいテーマが見つからないのは本当に困る。

このような環境下で、筆者の毎日の生活に3つの変化が現れた。まず、新聞や雑誌を今までよりこまめに読むようになった。最近目に留まった新聞記事としては、日本経済新聞の「Deep Insight: ウイルスは世界を変える」が挙げられる。矢野寿彦編集委員執筆のこの記事から、地球上の生命には、DNAの他にRNAを遺伝子とする生命体の潮流があることを教わった。同氏によれば「新型コロナウイルスは、インフルエンザ、エイズ、エボラといったウイルスと同じ仲間のRNAからなる」という。RNA（Ribonucleic Acid）と呼ばれる遺伝情報の特徴については、「修復機能を持ち合わせていない。自らの情報の正確さにあまりこだわらない。宿主の力を借りて自由自在に変化（変位）を繰り返す」、つまり「病原性を保ちながら、すさまじい変わり身の早さを持つ」と述べている。さらに、天然痘、ペスト、コレラ、スペイン風邪などによる人類と感染症との歴史を振り返り、新型コロナウイルスも世界を変える可能性を示唆した。

次いで、読書新聞が連載した「経済学×現代コロナ」を興味深く読んだ。同紙は、5回シリーズでジョン・メイナード・ケインズの「貨幣改革論」、ミルトン・フリードマンの「資本主義と自由」、ジョン・スチュアート・ミルの「経済学原理」、アダム・スミスの「国富論」、アルフレッド・マーシャルの「経済学原理」を取り上げ、新型コロナウイルスによる世界経済の危機を乗り越える知見と処方箋を探った。特に印象に残ったのは、同シリーズの最後に引用されたマーシャルがケンブリッジ大の教授に就任した際の講演で語った「クールヘッド・ウォームハート（冷静な頭脳と温かい心）を持って、

社会的な苦悩に立ち向かおう」という一節だ。

雑誌では、「WILL」の5月号号に興味深い記事をたくさん見つけた。その一つが、「新型コロナウイルス、武漢の研究所から流失濃厚」というスティーブン・モッシャー米人工調査研究所所長の記事である。同所長によれば、「中国で唯一、危険なコロナウイルスを扱う設備を有するレベル4の微生物研究施設が、武漢ウイルス研究所の附属機関である国家生物安全実験室」だという。さらに「新型コロナウイルスは、同実験室で感染した職員から施設の外に出たか、実験に使われた動物と知らずに食べてしまった人を通じて移った可能性がある」と述べている。この背景にあるのは、「法律で定められた通り適切に焼却処理せず、副業で小遣いを稼ぐために感染した動物を売り渡した研究者がいた」という指摘である。

次いで、テレビを見る時間が増えた。例えば4月26日には、夜8時からNHK総合テレビで大河ドラマ「麒麟がくる」を見た。その後、夜9時から時代劇チャンネルで「帰郷」を見てしまった。

「帰郷」は、杉田成道監督が史上初の8Kで撮影した時代劇として知られる。家族を捨てた渡世人の宇之吉が老境に入ってから故郷の木曾福島に帰郷して、過去を振り返りながら現在の心境を吐露する傑作である。主人公を演じる仲代達也は言うまでもなく、中村敦夫、橋爪功、常盤貴子、北村一輝、三田佳子など芸達者な配役人が熱く絡み合って飽きさせなかった。

「THE RETURN」の題名を掲げ、昨年10月の「MIPCOM（国際映像コンテンツ見本市）」で、アジア初のワールドプレミアとして特別上映されたのもうなずける。さらに昨年11月の「第32回東京国際映画祭」でも上映され、仲代達也が特別功労賞を受賞している。なお、8Kの撮影に使用されたカメラが気になっていたが、RED社



写真2 コジマ・ビックカメラ若林店が、筆者にとって最適な散歩ルートの目的地になっている。



写真3 コジマ・ビックカメラ若林店で、最も目立つのが8Kテレビのコーナーだ。



写真4 コジマ・ビックカメラ若林店のカメラコーナーでは、富士フィルムのデジタル一眼レフカメラ「X-T100」が目についた。

の「HELIUM」と判明した。

世界的なレベルで注目を集めたのは、日本時間4月19日に開催された「ワン・ワールド：トゥギャザー・アット・ホーム」だ。レディー・ガガが呼びかけ、WHO（世界保健機構）と非営利団体のグローバル・シチズンが主催したこのイベントは、Hulu、Sling、Fuboなどでストリーミングされた。ガガの呼びかけに応じたのは、ポール・マッカートニー、ザ・ローリング・ストーンズ、エルトン・ジョン、テイラー・スウィフト、セリーヌ・ディオーンなど、そうそうたる著名人であった。主催者から分かる通り、目的は新型コロナウイルスの感染防止に尽力している医療従事者に対する支援で、自宅をスタジオにしたオンライン出演という形式で行われた。スポンサーとして名を連ねたのは、コカコーラ、ステートファーム保険、グラクソ・スミスクライン、Vodafone、Access Bank、WW International（旧ウエイト・ウォッチャーズ）である。

ちなみにテレビ視聴が増えていることを示す緊急調査結果をスカパーJSATが、4月28日に発表している。これによれば、4月に入ってから75.4%の人が「家で過ごす時間」が増え、63.4%の人が「家族と過ごす時間」が増えたと回答した。そこで家族と何をやる時間が増えたかと聞いたところ「テレビを見る」が77.8%だったという。ちなみに、「会話をやる」が58.7%、「家事をする」が35.9%でこれに続いている。

筆者にとっての3つ目の変化は、最適な散歩ルートを探して、実行に移すことにした。他人との間隔をなるべく維持しながら

少し速足で、ほど良い距離を歩くコースをいくつかトライして、結果的にオフィスからコジマ・ビックカメラ若林店まで歩くのがベストということになった。ルートは、世田谷線の松陰神社前駅から松陰神社前通りを北東に向かい、若林5丁目の住宅街を突き抜け環状7号通りに達する。ここから環状7号通りに沿って50メートルくらい歩くと目的のコジマ・ビックカメラ若林店に到達できる。片道でちょうど1kmの距離で、人に出会うこともまれである。

コジマ・ビックカメラ若林店は、一階のメインフロアと地下一階で構成されており、失礼ながらあまり混雑しておらず、最新のテレビやカメラをじっくりと見て回ることができる。

一階のテレビ売り場には、8Kテレビ4Kテレビが整然と並んでいる。最も目に付くのが、シャープの「AQUOS 8K AX1」だ。60V型、70V型、80V型の3種が売りに出ている。高輝度、広色域、倍速120ヘルツ表示を実現する液晶を搭載しているのが特色だ。ちなみに、「8T-C60AX1」には237,800円、「8T-C80AX1」には、1,635,800円の値札が付いていた。シャープはこの他にも「AQUOS 8K BW1」の60V型と70V型、「AQUOS 8K CX1」シリーズの60V型と70V型も揃えている。

「BW1」は、BS4K、110度CS4Kチューナー内蔵の8K対応モデルである。

カメラの注目は、デジタル一眼レフカメラだ。富士フィルムが春の新製品として発売した「X-T200」を見たいと思ったがまだ展示しておらず、一世代前の「X-T100」を売り込んでいた。店員に依頼して「X-T200」のカタログだけは、手に入れることができた。これによれば、静電式タッチパネル液晶ディスプレイを採用し、モードダイヤルをシャッターボタン近くに配置、背面モニターをバリアングル式にしているのがセールスポイントである。また、動画性能が、「T100」は4K 15pまでだが、「T200」は4K 30pの撮影に対応している。

富士フィルム以外のお勧め品を聞いて見たら、ソニーの「α 6400」、キヤノンの「EOS Kiss X9i」、ニコンの「D5600」を挙げていた。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

**SWE DISH**

ニッサン新エルグランド4WD  
5名定員  
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載  
車高2.2m以下（地下駐車場可）  
3.6 KVA NMG アイドリング運用  
水圧エコ・ポール4m 搭載  
強化サスペンション  
国内（100V）海外（240V）対応  
IPコントロール  
ハイビジョン映像伝送  
運転席からワンマンオペレーション

**SMART SNG**  
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizeat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら  
エーティコミュニケーションズ株式会社  
TEL: 03-5772-9125

AI Communications k.k.